

## 2025年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

幼稚園から大学院まで連なる総合学園としての関西学院は、その良さを生かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施するため、連携する学校の教職員から専門的な視点による意見をうかがうことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。

本年度も、経年変化を見るために、引き続き「教育課程・学習指導」、「生徒指導」、「保健管理」、「保護者との連携」、「キリスト教主義教育の実践」、「特色ある教育の実践」、「関西学院共通項目」を評価項目に設定しました。評価の実施にあたっては、各項目について生徒・保護者・教員にアンケート調査を行い、それぞれの立場からの意見を集めることによって客観性を確保いたしました。アンケートの回収率は、生徒 88.7%、保護者 79.9%、教員 66.7%となっております。

多数の項目で得た高評価のアンケート結果に基づき、全体として良好な自己評価としましたが、今年度も「教育課程・学習指導」を中心として改善への示唆が多く与えられたことを重く受けとめ、生徒・保護者・教員の声に一層真摯に応える学校でありたいとの願いを強くしております。

本年度も各項目について、まず現状を説明し、アンケートの集計結果を参考にしながら評価・分析を加え、今後の改善に向けた方策を示し、自己点検・評価としました。

関西学院中学部は、学校評価を通じて自らその課題を探り、それに向き合って改善することによって、より充実した教育活動等を生徒に提供してまいります。また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく考えです。

2025年度中学部の学校評価を項目別にまとめたものを、以下に掲載いたします。

今後とも、各部門において改善に努めてまいりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

2026年3月15日  
関西学院中学部  
部長 宮川裕隆

## 学校評価

### 教育理念・使命・目標

中学部がめざす教育の目標

1. キリスト教に基づいた伝統ある人間教育を根本に置いて、「感謝・祈り・練達」の教育理念を大切に、人の痛みをわかろうとする人間、他者を尊重し将来に夢を持って社会に貢献できる人間を育てる。
2. 建学の精神を体得した生徒を育てることにより、将来、高等部、大学、さらに社会人として、リーダー的役割を果たせる人間を育てる。

### 2025 年度の評価項目

- ①教育課程・学習指導：全生徒に対して中学部がめざす水準の基礎学力を定着させるとともに、学力上位生徒に対して、興味関心に応じた発展的学習を行うため、学習課程の精査や教授力の向上をめざして設定している。
  - ②生徒指導：生徒の社会的資質や行動力を高め、学校が生徒にとって有意義で興味深く充実したものになることをめざして設定している。
  - ③保健管理：生徒の身体面、精神面にかかわる項目として設定している。
  - ④保護者との連携：生徒を育てるには学校教育と家庭教育に一貫性が必要である。そのため保護者と教員の連携が密になるように設定している。
  - ⑤キリスト教主義教育の実践：建学の精神としてのキリスト教主義教育の充実をめざし設定している。
  - ⑥特色ある教育の実践：中学部の特色として重点的に展開している授業や行事等の充実をめざし設定している。
  - ⑦関西学院共通項目：スクールモットー“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成をめざし設定している。
- 以上の7項目。

### 2025 年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【教育課程についての共通理解と連携】
目標	教員による教育課程の全体像の理解
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎年、学習ガイドブックを作成し、生徒に対する教科学習へのガイダンスを行なっている。同時に教員もそこから各教科の概要を把握・理解できるように期待をしている。</li> <li>●学力推移調査等の外部試験の結果を全教員に開示することによって、客観的な学習到達状況を周知している。</li> <li>●非常勤講師も含め、教科担当者会議を行い、個別生徒の学習状況について情報交換を行っている。また、隔週の教師会でも適宜、情報交換を行っている。</li> <li>●昨年度に引き続き全教科に対して教員の相互見学の取組を行った。</li> <li>●教員アンケート問1「教員は、教育課程の全体を理解している。」の項目についての肯定的評価が80.8%（昨年度92.3%）と高い値を維持している。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本項目については、従前の取組を継続的に行うとともに、それが実効的に働くよう、研修的な取組も行う。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【生徒の学力・体力の的確な把握】
目標	外部テスト導入などを通じた学力のより客観的な把握／教員による学力や体力評価についての理解向上
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●従来通り、定期試験だけでなく、小試験、口頭試問、口頭発表、課題提出、日々の学習活動への意欲等を含め、細やかな学力評価を行っている。</li> <li>●外部試験としては学力推移調査を実施し、客観的な学力把握に努めている。</li> <li>●日本漢字能力検定、実用英語技能検定を受検し、生徒らが意欲的に学力向上と学力把握に努めるよう、表彰等を行って、それらを奨励している。</li> <li>●外部試験などの結果を返す際、問題の解説にとどまらず、評価数値の持つ意味なども適宜、生徒に説明している。</li> <li>●全校駆け足（保健体育）の授業を行い、周回数の記録をフィードバックし、上位者は表彰している。</li> <li>●スポーツ庁による、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」に参加し、結果をフィードバックしている。</li> <li>●生徒アンケート問 3「中学部は、自分の学力や体力を正しくつかんでくれている。」の項目について昨年度同様、86.7%（昨年度 88.7%）の生徒が肯定的評価をしている。</li> <li>●同旨の質問である保護者アンケート問 4「中学部は、生徒の学力や体力を適正に評価している。」でも昨年度同様、93.0%（昨年度 94.8%）の肯定的評価が得られている。</li> <li>●教員アンケート問 2「教員は、外部テスト導入などにより、客観的な学力把握に努めている。」の項目について、昨年度同様、肯定的評価が 80.7%（昨年度 87.2%）で得られている。</li> </ul>
今後の方策	●概ね、良好な結果が得られているので、従来の取組を継続的に行う。

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【各教科の特性に応じた授業の工夫】
目標	教員自身による担当教科の特性の理解／より質の高い授業を目指しての教員による不断の研究／授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●従来通り、全教員に対して研修日を設定し、また個人及び教科研究費を支給し、研鑽の機会を確保している。</li> <li>●各教科で iPad など ICT 機器を用いた授業や課題の作成を行っている。</li> <li>●昨年度より全教科に対して教員の相互見学の取組を行っている。</li> <li>●関西学院の制度を活用した 2 年の海外留学を経た教諭 3 名がそれぞれの教科に研究成果をフィードバックしている。</li> <li>●教員アンケート問 6「教員は、知的好奇心の喚起に留意した授業を行っている。」に対する肯定的評価が 84.6%（昨年度 94.9%）であり、生徒アンケート問 5「授業は、さまざまな工夫が加えられていて分かりやすい。」に対する肯定的評価も 84.3%（昨年度 88.9%）と授業への評価は高く、この傾向は数年来変わっていない。</li> <li>●教員アンケート問 3「教員は、自らが担当する教科の特性を理解している。」について、今年度の肯定的評価は 96.2%（昨年度 100%）であった。この傾向は数年来変わっていない。</li> <li>●教員アンケート問 4「教員は、質の高い授業を目指して、授業研究を不断に行っている。」に対する肯定的評価は 84.6%（昨年度 92.3%）、教員アンケート問</li> </ul>

	5「教員は、授業研究の成果を活かし、授業の創意工夫を行っている。」に対する肯定的評価は84.6%（昨年度92.3%）で高い水準を保っている。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●働き方改革を含め、各教員が自己研鑽を行えるような環境の整備を行う。</li> <li>●授業の相互見学の取組を広げて教科間の研究の横展開を図る。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【個々のニーズや興味関心に応じた授業展開】
目標	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開／補習など特別な学習機会の提供／中学部と高等部との連携
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●英語の分割授業、数学の一部に分割授業を導入し、授業内で個別の生徒に対応できる機会を増やしている。</li> <li>●授業では、各教科で発展的、応用的内容を扱うよう努めている。</li> <li>●学校行事と関連付けた授業を行っている。</li> <li>●数学、英語では到達度の低い生徒に対し、補習を行っている。他教科においても個別的に遅れの目立つ生徒には、課題を課す等の対応を行っている。</li> <li>●英語では定期的に、数学では夏期休暇中にメンター制度と呼ばれる取組を導入し、大学生による学習習慣確立のための機会を提供している。</li> <li>●生徒アンケート問6、保護者アンケート問5における補習等の機会が確保されているかについての項目では、生徒の肯定的評価が87.7%（昨年度91.6%）、保護者の肯定的評価が84.0%で昨年度の74.2%から改善している。メンターなどの取組が浸透してきていることが示唆される。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●数学や英語の分割授業で、できる限り生徒の必要性に合わせた授業の構築を行う。</li> <li>●生徒間の学力差が大きく、授業内容や進度の焦点を合わせにくくなっているのが現状である。到達度の低い生徒への対応を継続するとともに、学力が高く、学習意欲も旺盛な生徒の要求にも対応できるよう、習熟度別学習の幅広い導入を検討する。ただし、その実現に向けた人的・財政的担保は必要である。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【課外活動の充実】
目標	生徒会などの自治活動の充実／クラブ活動など課外活動の充実／課外活動が正課（学習）を妨げていないことの徹底
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多くの生徒が、クラブ活動など課外活動へ意欲的に参加している。また、受験希望者対象の学校説明会などでも、アンケートや個別質問で課外活動への関心の高さがうかがわれる。</li> <li>●県大会以上に出場するなど運動部全般が活躍している。</li> <li>●生徒会活動全般を通じ、自治意識の涵養に努めている。冬季のコートの色の自由化、携帯電話の学校への持込み等に関して、生徒会と教師会との意見交換を継続して行っている。</li> <li>●課外活動と学習の両立を図るため、従来どおり、定期試験前1週間はクラブ活動停止としている。</li> <li>●学習や家庭・地域での体験ができるよう、休暇中のクラブ活動日を、夏期休暇中は18日に制限し、冬期休暇中は停止している。これは従来通りであるが、今年度も文部科学省の部活動ガイドラインを遵守している。</li> <li>●一部のクラブ活動（現在7つのクラブ活動）で部活動指導員を導入し、より専門的な指導を行っている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒アンケート問1「学校に行くのが楽しい。」の肯定的評価が89.7%で、生徒アンケート問2「中学部の教育に満足している。」の肯定的評価が90.0%である。保護者アンケート問1「生徒は楽しんで学校に通っている。」の肯定的評価が92.9%で、保護者アンケート問2「中学部の教育に満足している。」の肯定的評価が92.7%である。これは正課外の活動への期待、評価も高いことを示していると考えられる。</li> <li>●生徒アンケート問7「自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。」の肯定的評価が78.1%と、2021年度の69.6%から大幅に増え高位で安定している。</li> </ul>
今後の方策	●ここ数年来、アンケートでは概ね良好な評価が得られているので、従来通りの取組を継続していく。

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【基本的生活習慣の確立】
目標	挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーの指導／整理整頓や環境美化の指導
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●挨拶や時間厳守などといった基本的社会マナーについては、すべての教育活動の場面において、全教員で重点的に指導している。</li> <li>●整理整頓については、担任やクラブ顧問が私物管理の在り方を指導したり、忘れ物などを安易に放置したりせず、再発防止のためにその都度指導したりすることで随時啓発している。</li> <li>●環境美化については、風紀美化委員会と連携しながら、教室の掃除や廊下の汚れを落とすなどして、生徒と教員が一体となり校内美化に努めている。</li> <li>●生徒アンケート問10、保護者アンケート問10、教員アンケート問12の生徒の基本的社会マナーについての項目では、肯定的評価が生徒93.2%、保護者88.3%と、昨年に引き続き高かった。一方、教員の肯定的評価が、一昨年度86.4%、昨年度89.7%から、今年度76.9%と低くなった。教員集団が一体感を持ち、共通の認識を抱いたうえで、指導にあたることを求められると考えられる。</li> <li>●教員アンケートの問13「中学部は、生徒に整理整頓や環境美化に努めさせている。」の肯定的評価は69.2%と、昨年度71.8%から微減となった。日々生じる些細な事象に対して、その都度誠実かつ丁寧に、迅速に対応していくことを心掛けることが必要と考える。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本的社会マナーについては、全教員が共通の認識を抱いたうえで、すべての教育活動の場面において、細やかかつ丁寧に指導していく。</li> <li>●整理整頓や環境美化については、風紀美化委員会と連携しながら、生徒自らの美化意識を育み、具体的な実践に移していけるように指導していく。また、今後は校内だけでなく、地域へもその視野を広げていけるように指導していく。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【自主自律の精神の育成】
目標	HR（学級活動）における自主自律の精神の育成／学校行事における班活動などを通じた自主自律の精神の育成
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級活動においては生徒が、学校行事においては生徒会役員や実行委員がリーダーとなり、班や委員会を組織するなどして、その企画・運営を自主的・主体的に行なっている。</li> <li>●代議員会や委員会活動の活性化に重点を置き、学級活動や生徒会活動を中心</li> </ul>

	<p>に、自主自立の精神を育てている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教員アンケート問 14「中学部は、学級活動や学校行事において生徒の自主自律の精神の育成に努めている。」の肯定的評価が、一昨年度 91.9%、昨年度 92.3%から、今年度 100.0%と引き続き高かった。一方、生徒アンケート問 7「自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている。」の肯定的評価が昨年度の 83.1%から、今年度 78.1%と低くなった。生徒会役員や代議員会が自分たちで検討し、教師会と交渉した結果、近年検討を重ねてきた携帯電話の学内持ち込みや、マフラーの品質改良、防寒着の着用許可などといった権利を得た。「自分たちの手で、自分たちの学校をより良くしていく」といった思いが具体的な形となり体现された。そうした生徒の成功体験を積み重ねていくことが必要と考える。</li> <li>●保護者アンケート問 11「中学部は、学級活動や学校行事を通じて生徒の自主自律の精神を育成している。」の肯定的評価が 94.6 %、教員アンケート問 9「中学部は、生徒会などの自治活動が生徒によって盛んに行われるように配慮している。」の肯定的評価も 84.7%と高かった。生徒会役員を中心に実行委員会などを通して、生徒が自主的・主体的に学校行事などに取り組んできた姿勢が評価されているのではないかと考えられる。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学級活動や学校行事において、その企画・運営を生徒がこれまで以上に自主的・主体的におこなえるように指導する中で、生徒の自主自律の精神を育成していく。</li> <li>●生徒会活動や委員会活動を今後さらに活性化させ、より良い学校生活を過ごしていくために自分たちで何をどうしていくべきか、場合によっては何をどう変えていくべきかを生徒が自主的・主体的に判断し、行動に移していける力を身に付けさせる。</li> <li>●生徒指導部と生徒会・代議員会との連携を深め、年度に縛られず、継続性を持った生徒会活動の在り方や、校則の在り方などを引き続き模索していく。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【問題行動への対応】
目標	生徒の問題への対応についての教員間での共通理解／生徒の問題行動の早期発見／問題行動に対しての適切な指導・訓戒
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒の問題への対応についての教員間での共通認識については、情報共有フォルダや教師会での報告を徹底し、指導事案の共有を随時できるようにしている。さらに、教員用手引きを用いて、共通理解と意思統一を進めている。また、いじめ防止基本方針を改訂し、一貫したフローのもと、これまで以上にチーム学校として、生徒の問題行動に対応している。</li> <li>●今年度より SSW（スクールソーシャルワーカー）が学内に配置され、生徒の問題に対して適切に対応している。</li> <li>●生徒アンケート問 11、保護者アンケート問 12、教員アンケート問 17 の、生徒の問題行動に対して適切に対応しているかについての項目では、肯定的評価が生徒 81.8%、保護者 81.9%、教員 84.6%といずれも高かった。生徒、保護者と担任との面談を年度の早いタイミングで設けており、引き続き生徒とのコミュニケーションの機会を作るとともに、保護者に対しては、問題行動に至るまでの経緯や指導・対応方針などを、迅速かつ丁寧に説明していく必要があると考える。</li> <li>●教員アンケート問 15「生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある。」の肯定的評価は 88.5%だった。これまで以上に関係教員が集まり、ケース会議</li> </ul>

	<p>を行う機会が多くなった。チーム学校として、多くの教員が生徒の問題行動に関われるよう、一貫したフローのもと報告・連絡・相談の機会を、これまで以上に丁寧に設けていく必要があると考える。</p> <p>●教員アンケート問 16「教員は、生徒の問題行動の早期発見にむけて、日頃から人間関係を観察し、適宜面談を実施するなどしている。」の肯定的評価は 100.0%だった。問題行動が深刻化してから対応するのではなく、早期発見に至れるように、教員が生徒と共に休み時間を過ごしたり、クラブ活動など生徒が活動している場面に積極的に関わったり努めている。また、そうした中で気になることがあれば、生徒と話し合う機会を頻繁に設けるよう心掛けている。それらの成果が表れていると考えられる。また、学校生活アンケート、ASSESS (学校環境適応感尺度)、B-SAFE (より良い学級づくりのスキルと取組、友人や教師、経験に関する質問紙) の実施により、問題行動の早期発見、対応につながっていると考える。</p>
今後の方策	<p>●生徒対応の共通理解のための教員用手引き更新に向けた検討、情報共有フォルダの活用、教師会での生徒指導部からの報告の精緻化、いじめ防止対策委員会での情報共有などを進めることにより、生徒の問題行動に対する教員間での共通理解を、チーム学校として、今まで以上に深めていく。</p> <p>●生徒の問題行動の早期発見、また問題行動に対する適切な指導に向けて、保護者と教員の連携を深めるためにも、具体的な対応の在り方を改めて整理するとともに、担任やクラブ顧問、当該学年団と生徒指導部が、チーム学校として密に連携していくことで、迅速かつきめ細やかに指導・対応していく。</p> <p>●ASSESS や B-SAFE の効果的な活用の在り方、また SC (スクールカウンセラー) や SSW の活用、連携など、生徒支援における新たな体制の構築に向けた検討を進めていく。</p>

評価項目 【テーマ】	保健管理 【心身の健康管理】
目標	健康診断の定期的な実施と事後措置／健康状態の把握／健康相談／感染症の予防
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●2月に新入生健康診断を、5月に定期健康診断を実施している。新入生健康診断・定期健康診断の受診率は 98.2%であった。</p> <p>●中学部では保健体育の授業 (全校駆け足含む) を実施している。心臓突然死予防のため、特に心臓検診に力を入れ、毎年全学年に実施している。要再検となった生徒には「学校生活管理指導表」の提出を求め、主治医による判定の結果を教員と共有している。教員アンケート問 18「中学部は、生徒に対し健康診断を定期的な実施し、事後措置を適切に行っている。」の項目について、肯定的評価は 100%であった。</p> <p>●医学的に配慮を要する生徒の対応について、保護者、主治医と連携を取り、学校医の助言を基にその対応について協議し、教員間で情報を共有し対応している。救急対応で医療機関との連携が必要な生徒については、受診の際にスピーディーに情報伝達できるよう個々のファイルを作成し備えている。日々の生徒の健康状態は教師会で情報を共有している。</p> <p>●今年度より SSW (スクールソーシャルワーカー) が配置された。心理的課題を抱える生徒について、週 1 回のサポートルーム連絡会で、学年主任、支援コーディネーター、支援員、養護教諭、SC (スクールカウンセラー)、SSW で個々の生徒の状況について把握するよう努めている。必要に応じて SSW によるケース会議を開催し、生徒支援についての具体的な方針を検討している。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アセスメントシートを作成し、欠席日数の多い生徒の状況とその支援の情報について集約し、カウンセリング委員会で共有している。</li> <li>●生徒アンケート問 12、保護者アンケート問 13、教員アンケート問 19 の「生徒の健康状態についての把握」において、生徒の 88.1%、保護者の 93.0%、教員の 96.2%から肯定的評価が得られた。</li> <li>●感染予防について、学校薬剤師による飲料水検査、プール水質検査、空気検査を実施している。また日々の欠席調査より学校感染症罹患者の推移を把握し、学校医の指導のもと感染症対策に取り組んでいる。保護者アンケート問 14「中学部は、生徒が健康で安全な学校生活を送れるよう感染症の予防に配慮している。」の項目について、90.8%の肯定的評価が得られた。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今年度も学校医、学校薬剤師の先生方の助言を得ながら、学校環境の安全管理、生徒たちの心身の健康管理について取り組んできた。今後もその取り組みを継続していきたい。</li> <li>●心理面で課題を抱える生徒の支援について、今年度から SSW が就任し、ケース会議の実施、アセスメントシートの活用など校内支援体制の推進に寄与している。今後、外部機関（医療や福祉）との連携、初等部や高等部との連携する体制を模索しつつ、継続して生徒を支えていく仕組みの構築を目指していきたい。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	保健管理 【怪我・急病発生時の対応】
目標	怪我・急病発生時の迅速で適切な対応
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2025 年度の保健室の平均来室数は、内科的理由が 121.7 件/月、外科的理由が 105 件/月、その他の理由（心理的理由を含む）が 70.2 件/月であった（2025 年 12 月末現在）。2024 年度は内科的理由が 122.3 件/月、外科的理由が 91.1 件/月、その他の理由（心理的要因を含む）が 34.7 件/月であり、ここ数年、その他の理由（心理的要因を含む）による来室者が増加傾向にある。</li> <li>●日常の疾病、怪我については迅速に、保護者と連携、相談をしながら適切に対応できるよう努めている。生徒アンケート問 14、保護者アンケート問 15、教員アンケート問 21 の「怪我・急病人発生時の対応」に関する項目では、生徒の 73.7%、保護者の 94.4%、教員の 100%から肯定的評価を受けた。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「その他の理由（心理的要因）」による保健室への来室者が著しく増加している。ここ数年、不安や落ち着かない気持ちを抱えて頻回に保健室へ来室する生徒が増えている。自分の思いを言葉で表現することが難しい生徒が多いが、生徒の気持ちに寄り添い、個々の成長を見守れるよう支援していきたい。</li> <li>●保健室を一時的な休息の場だけでなく、適切な支援に繋げる中継点とするため、担任、SC、SSW、支援コーディネーター、サポートルーム支援員との連携を強化し、校内支援体制の充実を図りたい。</li> <li>●今後も急病、怪我の発生時には迅速、適切に対応できるよう取り組んでいきたい。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【保護者との懇談の実施】
目標	教育内容に関する保護者との意見交換／クラス担任と保護者との面談の実施／クラス・クラブ・委員会等の保護者との懇談の実施
具体的な取組の	●昨年度に引き続き、保護者面談を希望する保護者全員に、2 学期が始まる前ま

<p>状況とその効果 に対する評価</p>	<p>でにすべてのクラスが保護者面談を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●任意であるクラス懇親会は昨年度に引き続き、保護者の来校頻度を減らすため、多くのクラスが PTA 集会や PTA 総会に合わせて行った。</li> <li>●クラブ活動毎の保護者会は必要に応じて適切に行われている。</li> <li>●保護者アンケート問 18「中学部は、クラス担任と保護者との面談を必要に応じて適切に行っている。」に対して「強くそう思う」の回答が、昨年度の 38.2% から 41.4% に増えており、「どちらかといえばそう思う」と合わせると昨年の 93.0% から 93.7% に微増しており、保護者の期待に概ね応えられている。</li> <li>●Classi 配信やインスタグラムを通して学校での出来事が保護者に迅速に届き、学校での様子がより詳しく全体に伝わっている。</li> </ul>
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者の面談の頻度は適切なレベルで行われている。保護者がその頻度に満足できるように、情報をタイムリーにわかりやすく伝え続ける必要がある。特に Classi での配信量が多いため、情報の整理や発信のタイミングをより工夫する必要がある。</li> <li>●任意ではあるが、クラス懇親会をほぼすべてのクラスが行っている。PTA 集会や PTA 総会と同じ日に行っている場合もあるが、依然として時間が長いなどの問題もある。よって、PTA 幹事や参加する保護者への負担がより少ない開催方法へと改善したい。</li> </ul>

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>保護者との連携 【学校運営についての保護者（PTA）との協力状況】</p>
<p>目標</p>	<p>P T A と協力した学校行事の運営 / P T A 幹事会等の適切な開催</p>
<p>具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昨年と同じような形式で PTA 幹事会や PTA 集会を行うことができた。特に PTA 集会や PTA 総会では、全体会でこれからの行事や日程を副部長がスライドで分かりやすく紹介し、また予定に記した時間通りに会を進めた。</li> <li>●体育大会で PTA グッズを売ることで、T シャツを文化祭まで待たずに購入できるようにした。</li> <li>●文化祭では全地区の PTA が店舗販売を行った。飲食販売はすべて体育館で行い、PTA グッズは校舎横に設置したテントで販売を行った。</li> <li>●文化祭を円滑に進めるために、1 学期にそれぞれの地区の PTA におおよそのスケジュールを渡し、情報共有を頻繁に行った。</li> <li>●文化祭当日の売店での販売をお手伝いしていただけるように、PTA 幹事以外にも地区を超えて広く保護者全体に Classi を通して呼びかけた。昨年度の反省から 1 学期ではなく、2 学期に募集をかけた。また所属地区以外でのお手伝いも合わせて募集した。昨年度に比べ、人数が集まらなかったが、地区を超えてのお手伝いも合わせて募集したおかげでどの地区でもスムーズに販売を行うことができた。</li> <li>●文化祭で各地区の PTA が販売する品目を増やさなかったが、各品目の量を増やしたので昨年度に比べ、収益がさらに増えた。</li> <li>●文化祭当日、体育館での販売とともに、飲食をすべて体育館内で行った。昨年度より椅子や机を増やした。またスムーズに席に座れるように、机上を拭いたり椅子や机を動かして新しい席を作るなどの作業を生徒の PTA 実務が行った。</li> <li>●保護者アンケート問 16「中学部は、行事などの際に、適宜 PTA と協力してこれを実施している。」に対して「強くそう思う」の回答が、昨年度の 49.1% から 48.5% に、「どちらかといえばそう思う」を加えると昨年度の 98.9% から 98.2%</li> </ul>

	に微減しているが、概ね保護者の期待に込えている。
今後の方策	●Classi を用いて PTA 幹事以外の保護者にも PTA 活動に参加していただく募集方法を昨年度から調整したが、まだ安定して十分に参加者を確保できていないので呼びかけのタイミングや方法を改善したい。

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の理念の共有】
目標	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中学部教育の五本柱の一つであるキリスト教主義教育のプログラムを、礼拝や聖書科授業、様々な行事を通して展開した。礼拝については、学内外から講師や奨励者を招くことができた。保護者に対する「PTA 聖書を学ぶ会」は今年度は特にゲストを招いて開催することが多かった。この会は保護者が中学部のキリスト教主義教育の理念に接する機会となっている。</li> <li>● 生徒アンケート問 15「日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる。」の項目についての肯定的評価は 92.5%（昨年度 92.1%、一昨年度 88.0%）、また問 16「キリスト教に関する理解が深まっている。」の項目についての肯定的評価は 92.0%（昨年度 86.1%、一昨年度 83.0%）といずれも昨年度、一昨年度に比べ、高い数値になっている。保護者アンケート問 19「中学部は、キリスト教主義教育を適切に行っている。」の項目についての肯定的評価は 96.3%（昨年度 97.9%、一昨年度 97.8%）で昨年度、一昨年度よりは微減しているものの、数値から見ると、保護者のキリスト教主義教育への理解の肯定的評価が安定して高い数値で推移していることは評価できる。教員アンケート問 26「教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している。」に対する肯定的評価は 84.6%（昨年度 79.5%、一昨年度 83.8%）とここ三年間で最高値となっている。特に昨年度より 5 ポイント以上増えているのは注目すべき点である。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中学部は今年創立 136 周年を迎え、関西学院の建学の精神であるキリスト教の精神を受け継ぐ学校として、時代の変化に適応したキリスト教主義教育を構築し、具体的でかつ新しい教育プログラムを展開する。生徒並びに教員に対しては毎日の礼拝を通して、体験的にキリスト教についての理解を深める時間として継続していく。また、保護者に対してもキリスト教にふれる機会を設けていく。</li> <li>● 教員に対して、さまざまな研修の機会を通して、理念を共有するための研修を継続的に実施する。また、学内外のキリスト教主義教育にかかわる行事等への積極的な参加を呼びかける。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の推進】
目標	学校の重要な柱としての礼拝の遵守／生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>● キリスト教主義教育の実践として、毎日の礼拝の時間を中心に、生徒と教員がともに日常的にキリスト教精神にふれるプログラムを実施している。生徒には聖書科の授業や様々な学校行事を中心にキリスト教主義教育を展開している。</li> <li>● 今年度も継続して、生徒たちが自主的に取り組む生徒礼拝を行うことができた。宗教総部の J. H. C. が主催する毎週 1 回の早天礼拝も定着して行われ、年間を通じて約 20 名が出席している。これまでになかった傾向である。</li> <li>● 教員アンケート問 27「中学部は、礼拝を重要な柱として守っている。」の肯定</li> </ul>

	<p>的評価は100%（昨年度94.8%、一昨年度89.2%）と全員が肯定的評価を示したのは初めてである。教員間において礼拝がキリスト教主義教育の重要な柱である認識は定着しているといえる。教員アンケート問28「中学部は、生徒のキリスト教主義による人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している。」の肯定的評価は80.8%（昨年度74.3%、一昨年度83.7%）と昨年度より6.5ポイント高くなっている。宗教運動等のプログラムの充実がその理由になっているのだろう。</p>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 礼拝の奨励ではできる限り、様々な分野で活躍されている講師を招く。聖書科授業のカリキュラムも、より改革を進めながら、いのち、人権、平和、道德教育などのさまざまなテーマを取り入れ、キリスト教主義教育を推進していく。</li> <li>● 人間教育の場でもある礼拝を一日の生活リズムを整える時として堅持し、休校期間中はオンラインによる礼拝のかたちを取り入れ、生徒・保護者・教員にとって日常化した親しみやすい礼拝を継続していく。</li> <li>● 生徒たちがより自主的で主体的な運営ができるような礼拝にするため、きめ細やかな指導を行っていく。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	<p>特色ある教育の実践 【キャンプ・体験的学習】</p>
目標	<p>キャンプ・体験的学習の、教員全員・学校全体による実施</p>
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>● キャンプ・体験的学習は中学部が長年大切にしてきた伝統的行事の1つである。1年生時は入学直後の新入生オリエンテーションキャンプ（2泊3日）、2年生時は岡山県の無人島で青島キャンプ（3泊4日）、3年生時は修学旅行（4泊5日）と、各学年で特徴的な校外宿泊行事を設けている。</li> <li>● 2年生時の青島キャンプはコロナ禍以降、感染状況に合わせて実施形態を変えてキャンプを行ってきた。2024年からは3泊4日でキャンプを実施している。生徒が青島キャンプでいかに多くのことを学び、多くの経験を積むことができるかを考え、プログラム等の改善をしながらキャンプを行っている。</li> <li>● 1年生時の明日香村での校外学習、2年生時の奈良市での校外学習、3年生時の九州での修学旅行では、事前に生徒に行動計画を練らせ、班行動を中心とした自主研修を組み込んでいる。</li> <li>● 生徒アンケート問24「キャンプや体験的学習が学校全体で丁寧に準備され実施されている。」の肯定的評価は92.0%（昨年度92.7%）、保護者アンケート問27「中学部は、キャンプや体験的学習を丁寧に準備・実施している。」の肯定的評価は96.0%（昨年度96.4%）、教員アンケート問34「中学部は、キャンプ・体験的学習により、生徒の創意工夫や協力する心を養っている。」の肯定的評価が100%（昨年度97.5%）となり、生徒、保護者、教員すべてにおいて高評価であった。体験的学習の重要性が生徒・保護者と教員双方に理解され、中学部の取組とその効果が評価された結果であると考えられる。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● キャンプ・体験的学習の意義は、生徒・保護者・教員の誰もが認めるところである。次年度以降も、生徒にとって深い学びの場となる行事を実施できるよう、各行事の改善を進めながらキャンプ・体験的学習を継続していく。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	<p>特色ある教育の実践 【英語教育】</p>
目標	<p>英語教育を通しての、世界への視野の拡大／英語教育を通しての、ことばへの意識の向上と言語運用能力の育成／国際理解の感性育成のためのプログラムの実</p>

	施
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本人教員とネイティブ・スピーカーによるティーム・ティーチングを導入し、英語を母語とする人の特有の表現を学び、日本人がつまづきやすい点の克服を図っている。</li> <li>● 1年生時から英語での作文に取り組み、3年生時には英文のレポート作成に取り組み、論理的に文章を組み立て、説得力のある英文を書く力をつけている。</li> <li>● 2024年度から学習支援アプリ ELST を導入し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の習得と向上に取り組んでいる。</li> <li>● 他国の文化や歴史、社会を理解し偏見を持たずにお互いを尊重する姿勢を育むことを目的に、インド親善訪問旅行、オセアニア英語研修旅行を実施している。また、英語の上達だけではなく、生徒の視野を世界に広げる機会を設けるために様々な英語研修を紹介している。</li> <li>● 3年生時にはSDGsについて英語で学び、国際理解を深め、意見を発信できるように英語での意見交換を授業で実践している。</li> <li>● 生徒アンケート問20「英単語や英文法が身につく、英語を読む・書く・聞く・話す、の様々な活動ができている。」の肯定的評価が76.3%（昨年度80.8%）となり、昨年度から肯定的評価全体で見れば評価が下がっているが、「強く思う」と回答した生徒が40.7%（昨年度31.7%）と昨年度より多くなっている。2024年度より導入した学習支援アプリの効果であると考えます。</li> <li>● 保護者アンケート問23「中学部は、英語の文法学習に併せ、読む・書く・聞く・話す、の4技能を高める学習活動を展開している。」の肯定的評価は78.7%（昨年度78.7%）で昨年度同様の評価であった。学習支援アプリ等を使った家庭学習の様子を通して保護者の理解が定着した結果であると考えます。</li> <li>● 生徒アンケート問21「海外との相互交流や外国人教員を通して、異文化に興味を持った。」の肯定的評価が80.3%（昨年度70.7%）、保護者アンケート問24「中学部は、海外との相互交流や外国人教員を通して、生徒の国際理解の育成に努めている。」の肯定的評価は84.8%（昨年度89.2%）、教員アンケート問31「中学部は、国際理解の感性を育成するためのプログラムを適切に実施している。」の肯定的評価は100%（昨年度92.3%）となり、生徒・保護者・教員の三者すべて高評価であった。インド親善訪問旅行・オセアニア英語研修旅行だけでなく、多くの生徒が国際交流、英語の上達の機会を持てるように、様々な英語研修プログラムを紹介したことが高い肯定的評価につながったと言える。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 英語の語学力だけでなく、世界への視野を広げることを目的にした英語科の授業実践と、異文化理解、国際理解を深めるための学習活動は必要不可欠である。現在実施している学習活動と国際交流プログラムを継続し、生徒の言語運用能力の向上、国際理解の感性育成に努める。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【芸術教育】
目標	音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の豊かな感性の育成／音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の自己表現能力の育成
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 通常の音楽・美術の授業に加えて、秋に行われる文化祭では、各クラスが合唱を披露する音楽コンクール、授業で制作した全校生徒の作品を展示する美術展などを開催している。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生徒が本物の芸術に触れることができる機会をつくるために、学外の施設に演奏や劇を鑑賞しに行く、演奏家や伝統芸能団体などに学校公演を依頼するなどして、芸術鑑賞会を毎年行っている。</li> <li>● 生徒アンケート問 22「音楽・美術などの芸術活動を通して、表現する楽しさを味わい、豊かな心が育っている。」の肯定的評価は 72.3% (昨年度 80.7%)、保護者アンケート問 25「中学部は、音楽・美術を中心とした芸術教育により、生徒の感性と表現力を育成している。」の肯定的評価は 88.7% (昨年度 89.1%)、教員アンケート問 32「中学部は、音楽・美術を中心とした芸術教育により生徒の豊かな感性を育成している。」の肯定的評価は 96.1% (昨年度 100%) となり、三者すべてで高い肯定的評価ではあるものの、生徒、保護者、教員の三者で評価が下がる結果となった。今年度は例年の音楽コンクールや美術展等の行事に加え、芸術鑑賞会は学外のホールでミュージカル鑑賞をおこなうなど、生徒の情操の育成に取り組んだが、生徒の感性や表現力の向上につながったと実感しにくく、さらには「本物の芸術に触れる機会」として実感しにくかったものと考えられる。また、そのような行事での様子が保護者に伝わりにくく、教員にも生徒の変化として捉えにくかったことが三者の評価が下がった要因であると考ええる。</li> </ul>
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日々の授業・行事ともに生徒が主体的に活動に取り組むことができるように授業内容や行事の実施形態を工夫し、鑑賞活動や表現活動の機会を多く設け、生徒の豊かな情操の育成、自己表現力の育成に取り組む。</li> <li>● 生徒が自己の感性と表現力の向上を実感できるようなアプローチを日々の授業に積極的に取り入れる。</li> </ul>

評価項目 【テーマ】	関西学院共通項目 <b>【関西学院における一貫教育を含めた総合学院としての観点】</b>
目標	スクールモットー“Mastery for Service”の認知度・共感度を知る。／スクールモットー“Mastery for Service”の認知度向上を図る。／学校の教育が、関西学院の使命である“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成につながっていることを再認識してもらう。
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 関西学院の建学の精神を表すスクールモットー“Mastery for Service”の理念の共有と実践について、生徒・保護者・教員に対して共通の質問を提示し、回答を得た。生徒アンケート問 26、保護者アンケート問 29、教員アンケート問 36の「私は、関西学院のスクールモットーが“Mastery for Service”であることを知っている。」の肯定的評価は、生徒が 90.3% (昨年度 98.0%、一昨年度 98.6%)、保護者が 99.1% (昨年度 100%、一昨年度 99.7%)、教員が 100% (昨年度 100%、一昨年度 100%) だった。どの数値も高いことが他校にはない中学部の特色である。スクールモットー“Mastery for Service”が生徒・保護者・教員の共通の理念として定着しているが、生徒が 7.7 ポイント下がっていることは分析する必要がある。生徒アンケート問 27、保護者アンケート問 30、教員アンケート問 37の「私は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”に共感している。」の肯定的評価も、生徒は 99.1% (昨年度 92.9%、一昨年度 91.9%)、保護者は 98.6% (昨年度 99.8%、一昨年度 98.7%)、教員は 100% (昨年度 100%、一昨年度 100%) と非常に高い数値を維持している。生徒アンケートのポイントが問 26 より問 27の方がポイントが高いことは、設問の受け止め方の問題であるだろう。生徒アンケート問 28、保護者アンケート問 31、教員アンケート問 38の「中学部は、『“Mastery for Service”を体現する世界市民』の育成につながる教育を実践している。」の肯定的評価は、生徒が 91.0% (昨年度 89.8%、一昨年度 87.1%)、</li> </ul>

	保護者が 93.2% (昨年度 93.9%、一昨年度 92.4%)、教員が 92.3% (昨年度 94.9%、一昨年度 86.5%) であった。いずれの評価項目もすべて肯定的評価が非常に高くなっているという結果は、中学部がスクールモットーを基に教育活動を展開していることを、生徒・保護者・教員が共通に理解し、それを体現していると評価できる。
今後の方策	●スクールモットー“Mastery for Service” の理念の共有と実践についての肯定的評価を継続していくために、その理念を教育活動で展開することを常に心がけ、礼拝、授業や宗教運動等の行事等を行っていく。

### 総合評価

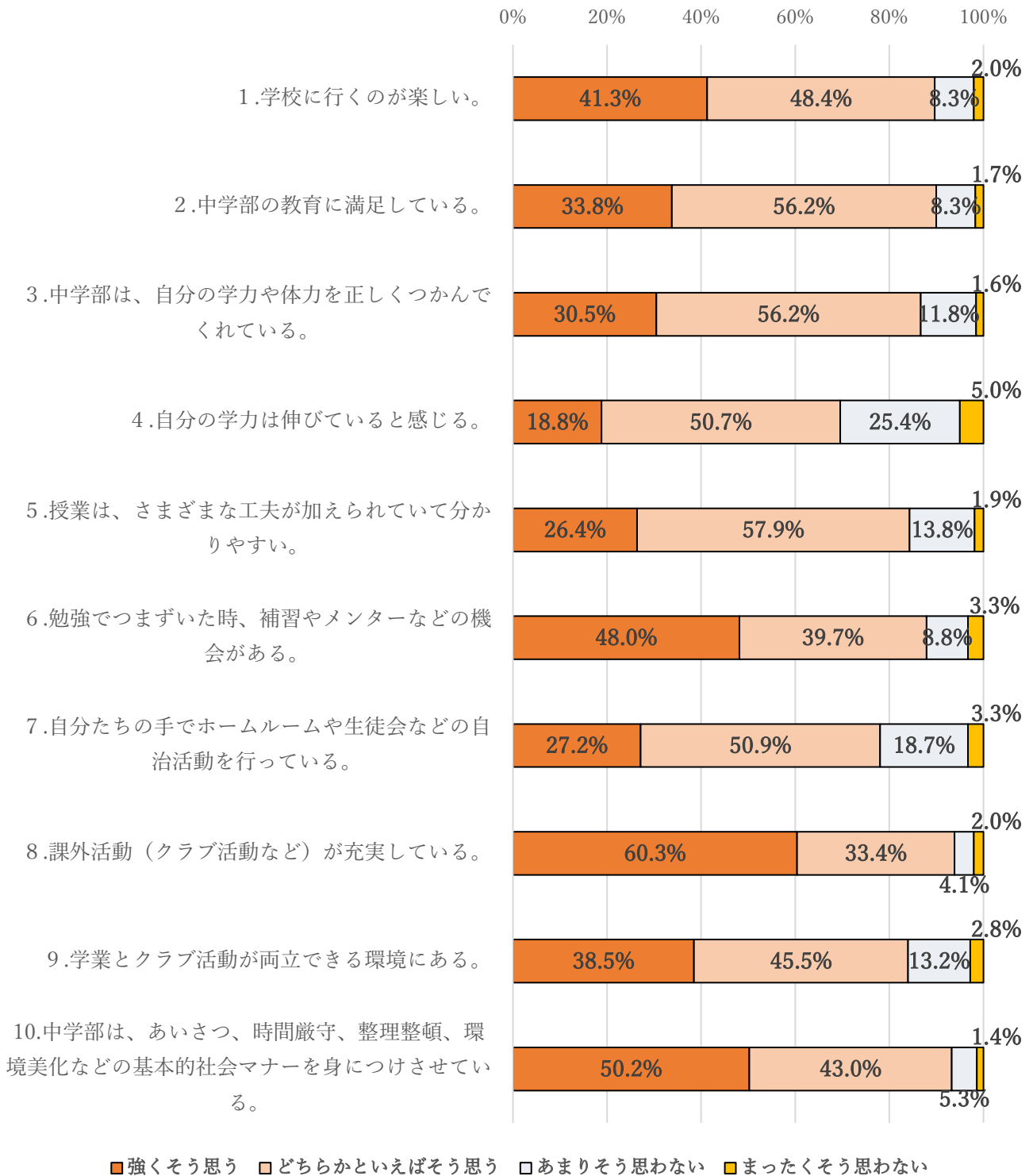
<ul style="list-style-type: none"> <li>●昨年度と同様に生徒・保護者・教員のいずれにおいても多数の項目で肯定的評価を得ている。今後も安定した教育活動を展開できるよう学校としての努力を続ける必要がある。</li> <li>●昨年度開始した授業相互見学の機会なども通じて授業に取り組む教員の意識の高まりは引き続き見受けられる。それぞれの教科の特性を理解しつつ、互いに学び合い、授業の創意工夫を行う環境を整えることが肝要である。</li> <li>●学級活動や学校行事、生徒会役員を中心とした実行委員会などを今年度も生徒が自主的・主体的に取り組むことができた。今後も生徒と教員の連携に継続して取り組んでいく。</li> <li>●ASSESS (学校環境適応感尺度) や B-SAFE (より良い学級づくりのスキルと取り組み、友人や教師、経験に関する質問紙) の効果的な活用、および SC (スクールカウンセラー)、SSW (スクールソーシャルワーカー) の活用、連携による生徒支援の体制構築を今後も継続していく。</li> <li>●Classi 配信や Instagram を通じて学校の様子や連絡が保護者に詳細に届くことが増えた。こうした活動ともあわせ、これまでと同様、保護者との丁寧なコミュニケーションを図っていくことが重要である。</li> <li>●スクールモットーに対する生徒・保護者の理解が下がっていることについては、要因を分析する必要がある。キリスト教主義教育に基づく人間教育・全人教育を推進すべく、引き続き生徒の成長のために、教職員と保護者が一丸となって取り組んでいきたい。</li> </ul>
--

### 2025 年度の評価をふまえて 2026 年度に予定している評価項目、テーマ等

<ul style="list-style-type: none"> <li>●評価項目については、①教育課程・学習指導、②生徒指導、③保健管理、④保護者との連携、⑤キリスト教主義教育の実践、⑥特色ある教育の実践、⑦関西学院共通項目の 7 項目を継続して取り上げる。</li> </ul>
--

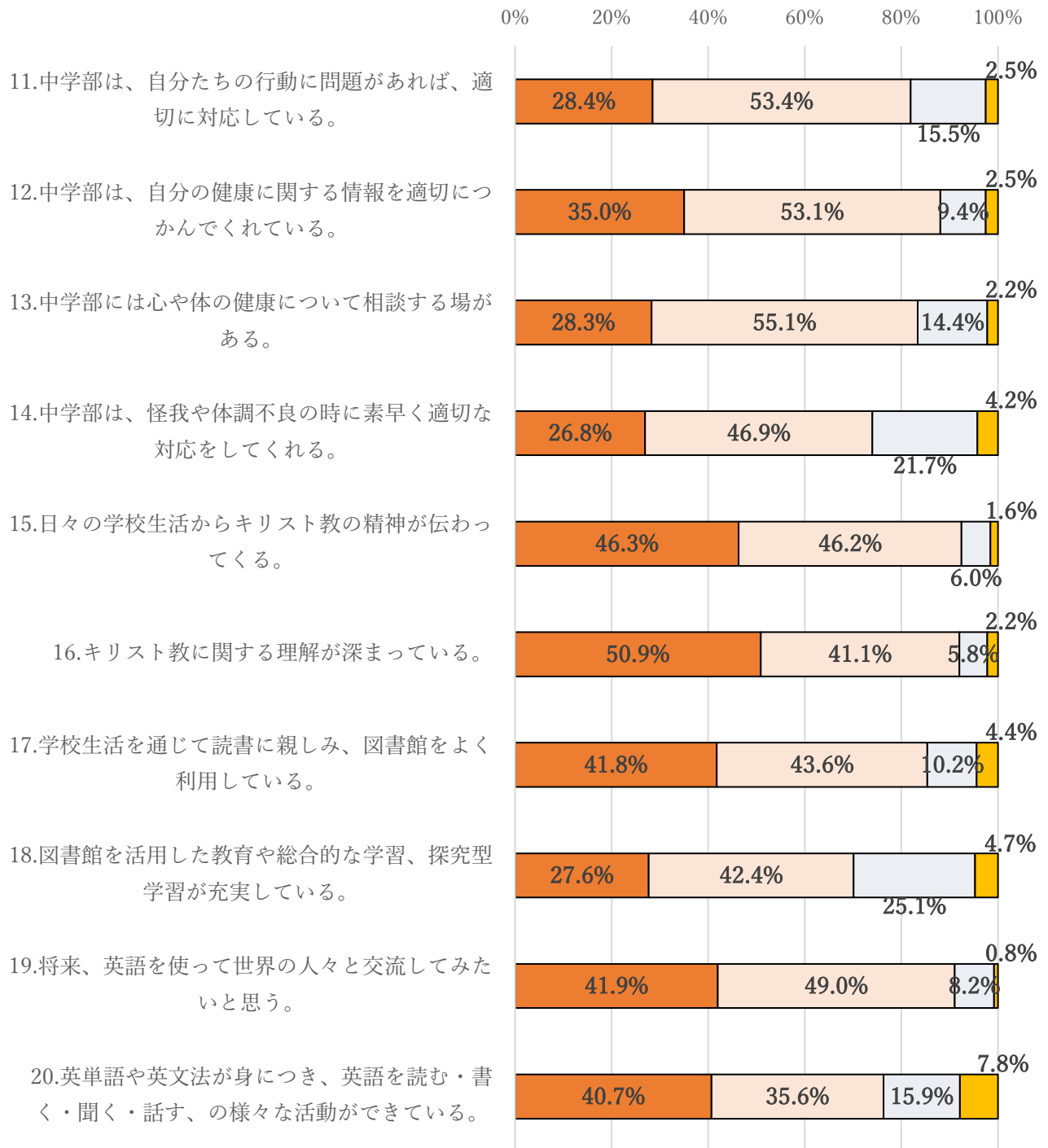
2025 年度学校評価

2025年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・生徒（回答率 88.7% 回答637人/対象718人）



## 2025年度 学校評価アンケート集計結果

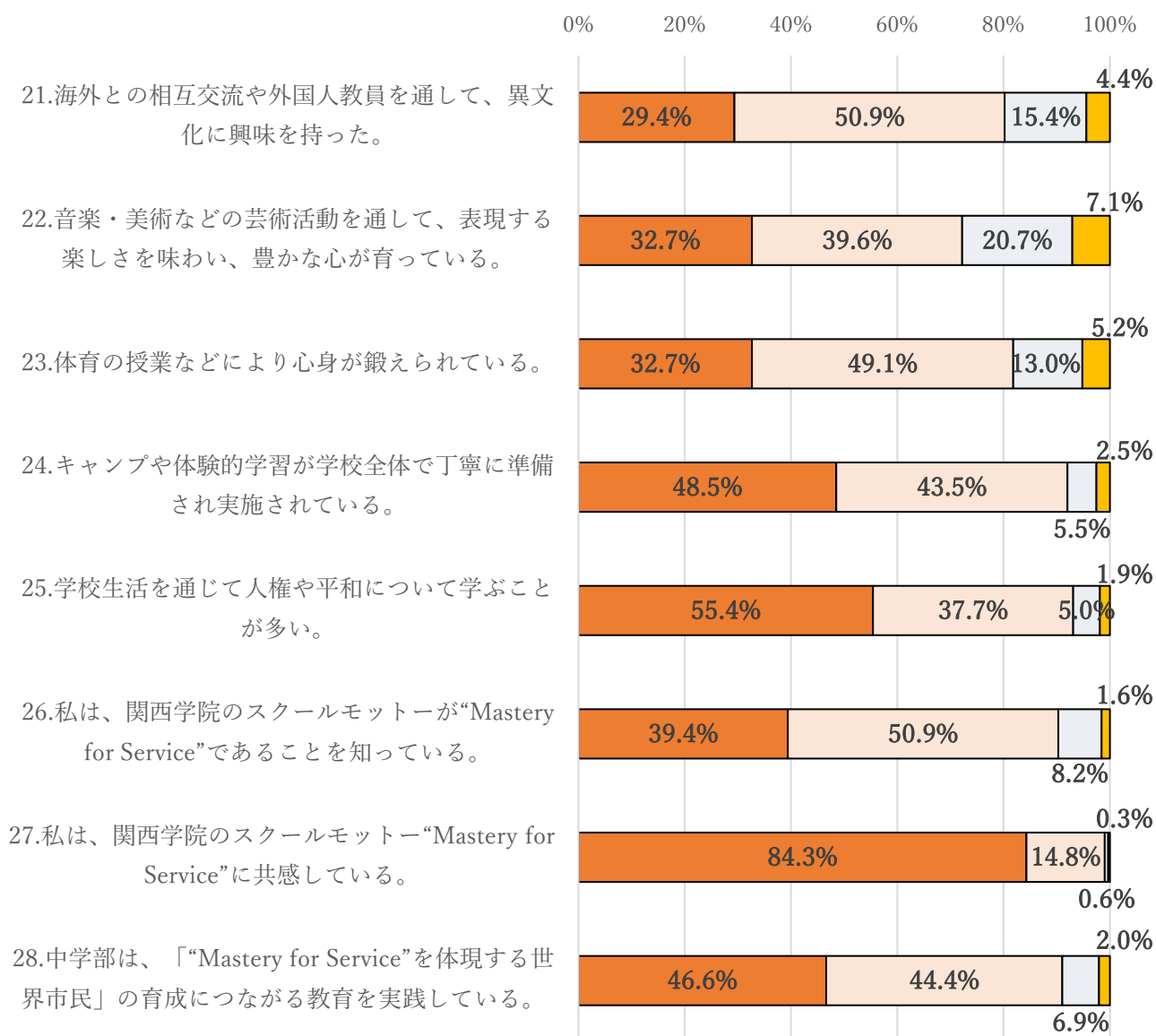
中学部・生徒（回答率 88.7% 回答637人/対象718人）



強くそう思う
  どちらかといえばそう思う
  あまりそう思わない
  まったくそう思わない

## 2025年度 学校評価アンケート集計結果

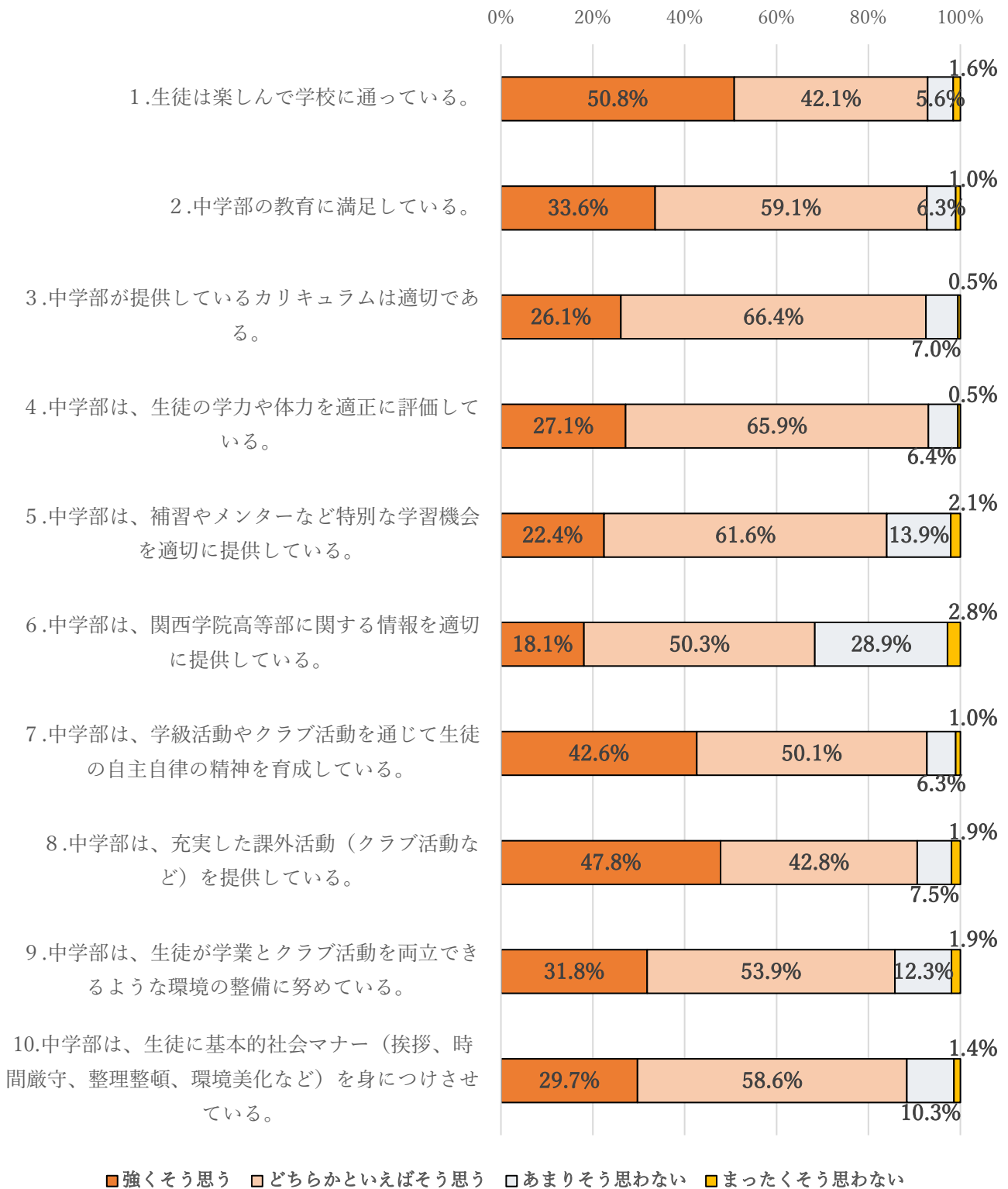
### 中学部・生徒（回答率 88.7% 回答637人/対象718人）



強く思う
  どちらかといえば思う
  あまりそう思わない
  まったくそう思わない

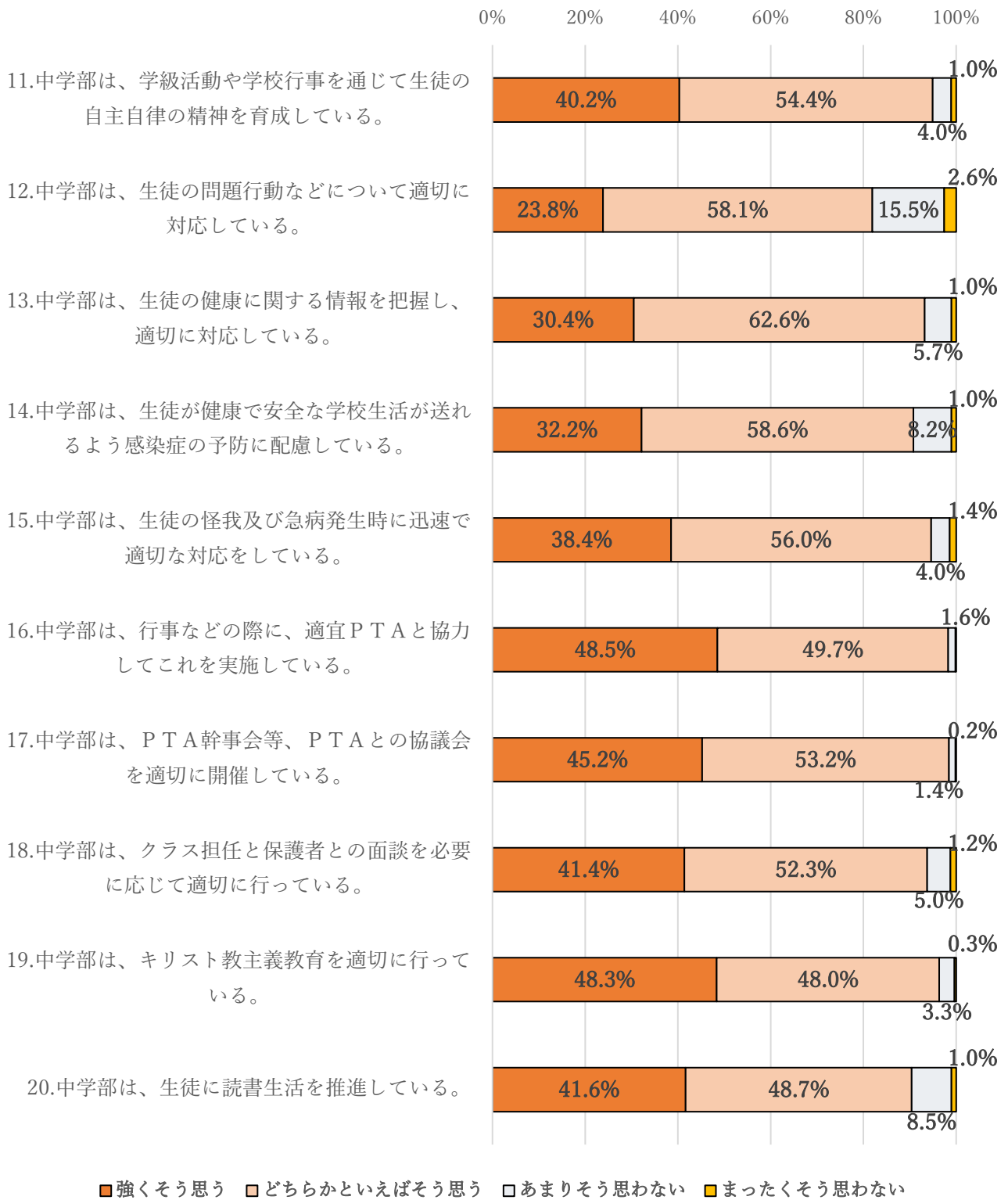
## 2025年度 学校評価アンケート集計結果

中学部・保護者（回答率 79.9% 回答575人/対象719人）



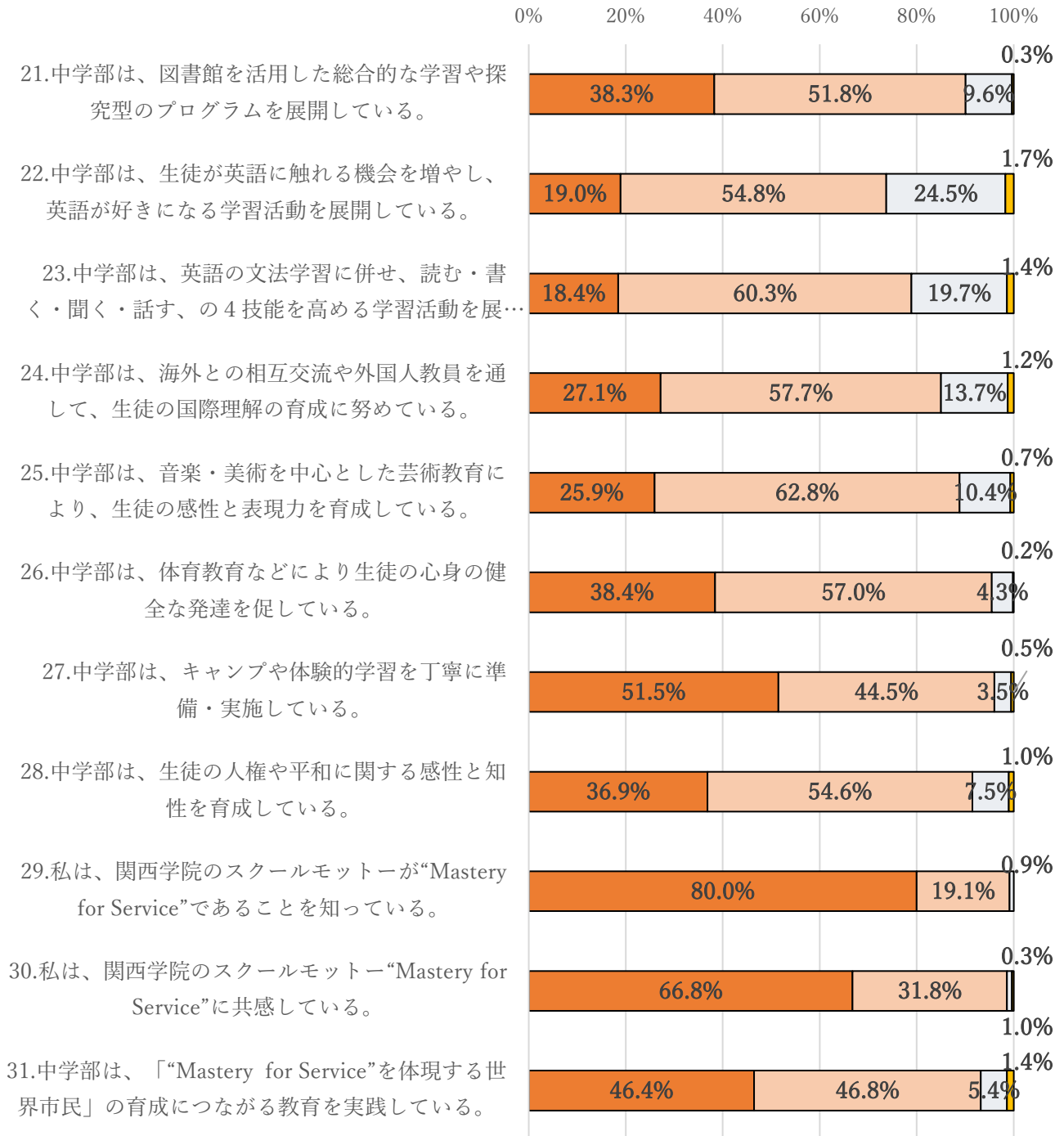
## 2025年度 学校評価アンケート集計結果

中学部・保護者（回答率 79.9% 回答575人/対象719人）



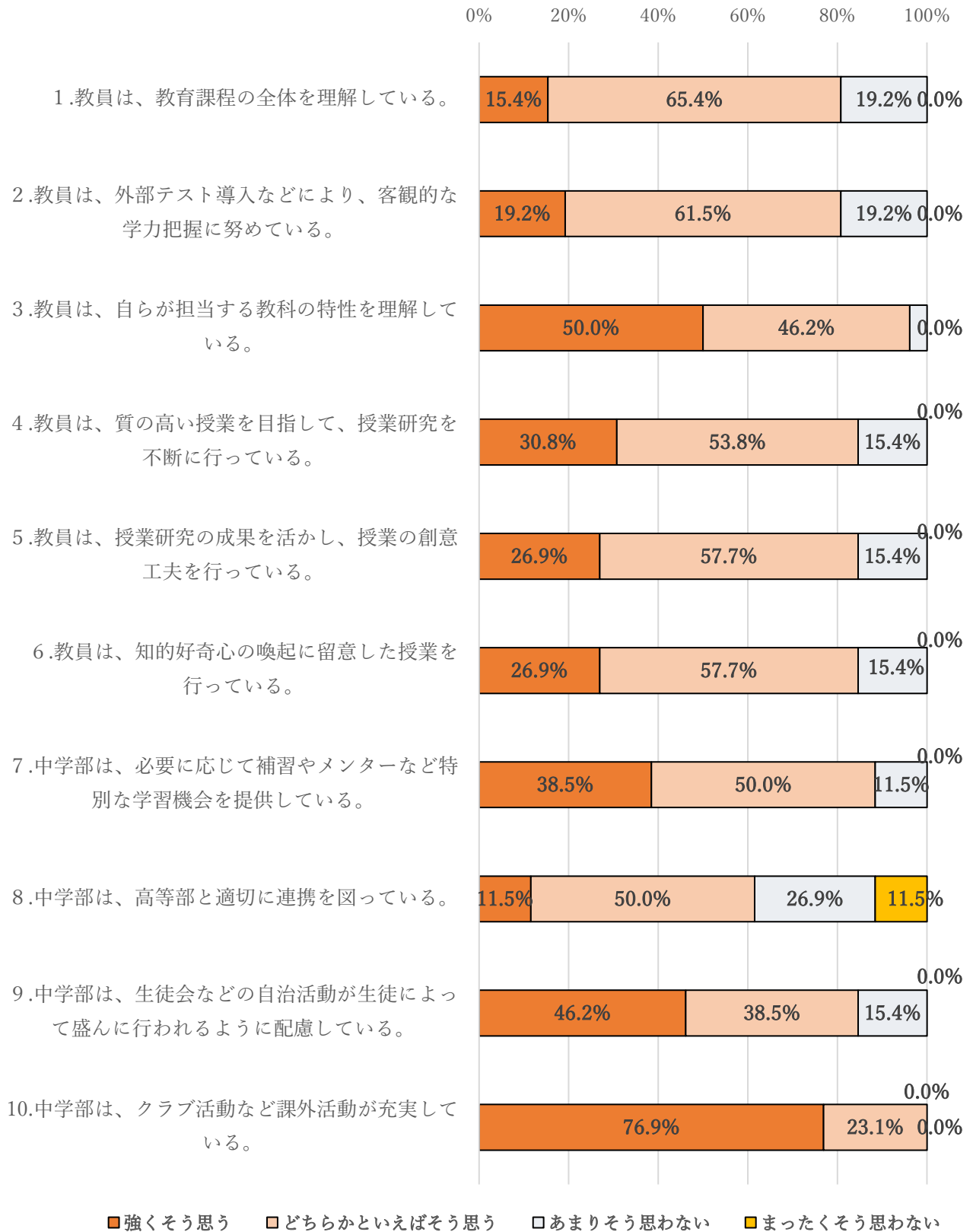
## 2025年度 学校評価アンケート集計結果

中学部・保護者（回答率 79.9% 回答575人/対象719人）



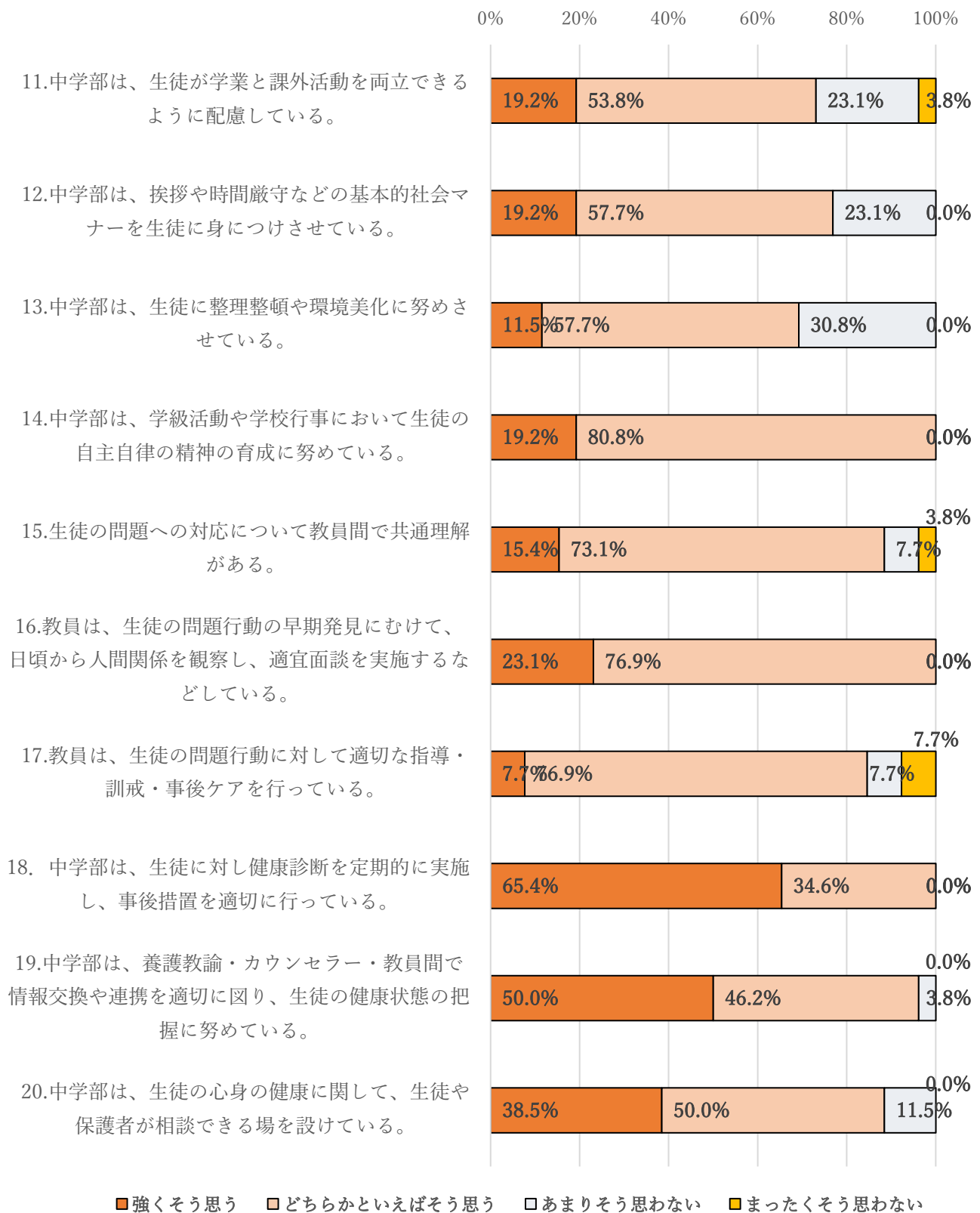
強く思う
  どちらかといえば思う
  あまりそう思わない
  まったくそう思わない

2025年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・教員（回答率 66.7% 回答26人/対象39人）

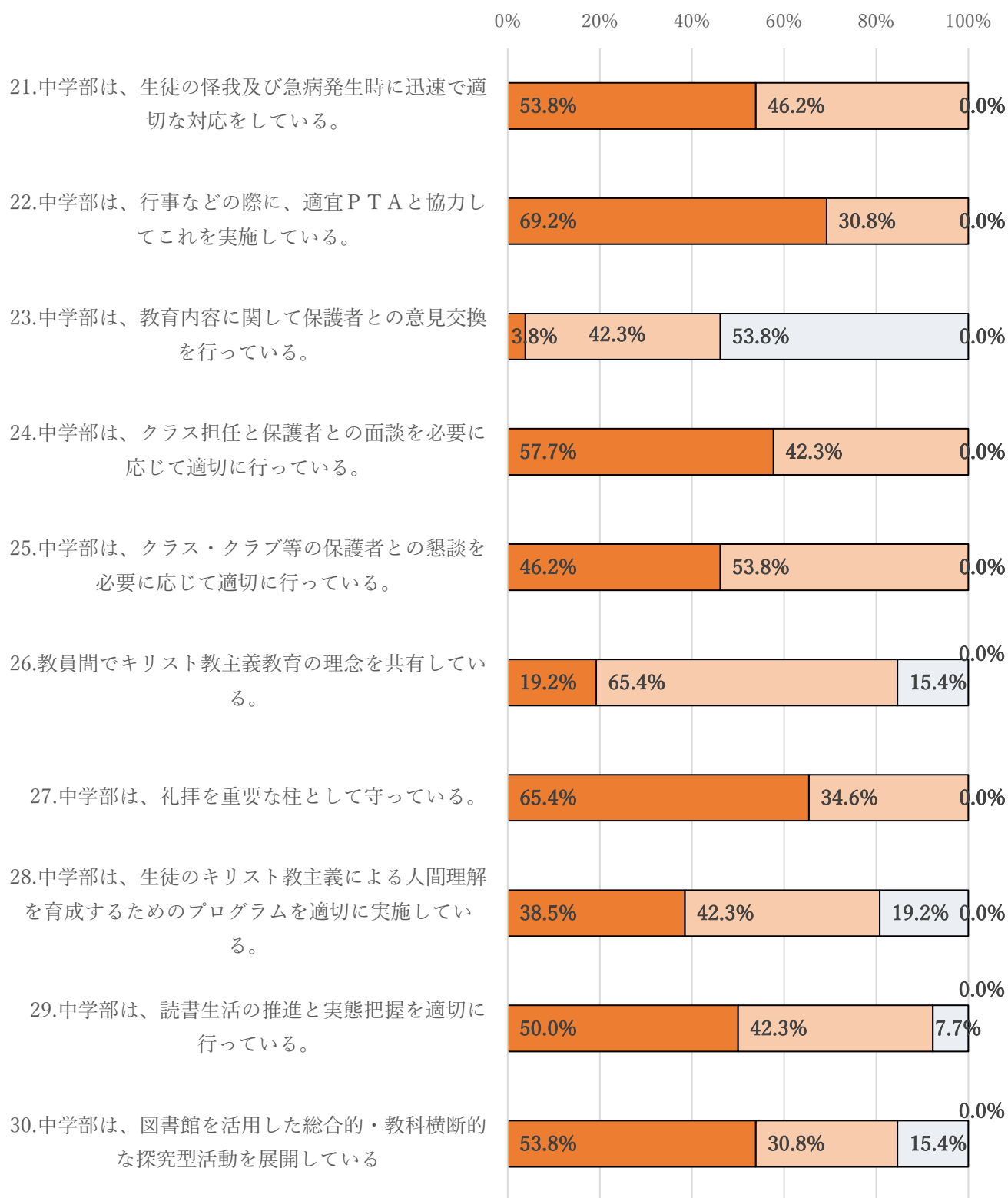


## 2025年度 学校評価アンケート集計結果

### 中学部・教員（回答率 66.7% 回答26人/対象39人）



## 2025年度 学校評価アンケート集計結果 中学部・教員（回答率 66.7% 回答26人/対象39人）



強く思う
  どちらかといえば思う
  あまりそう思わない
  まったくそう思わない

2025年度 学校評価アンケート集計結果  
 中学部・教員（回答率 66.7% 回答26人/対象39人）

